



北海道・東北ブロック民俗芸能大会における会津大念仏踊り(山形県民会館)

寺が統制の中心となって今日に至っている。

(3) 時期及び場所

撮取講は二十四組あり、講員は合わせて四百名を越す。撮取講はほぼ全会津にわたるが、今回の出演団体である喜多方市熊倉小沼の安養寺を中心とした北方と、会津高田町の地藏尊を中心とした南方、それに猪苗代の三地区に大別される。それぞれの講中は縁日をきめて、ほぼ地区内の講員を招待して踊る。なお、安養寺の縁日は八月三十日である。

(4) 構成と内容

役員は本部となる融通寺に総長、副総長各一名と、大世話人、中世話人、常世話人を置く。

踊りに先立って、まず本堂に列座し、内念仏ともいう次の十一項からなる回向勸行が行われる。

- ① 香偈
- ② 三宝礼
- ③ 三奉請
- ④ 歎仏偈
- ⑤ 略懺悔
- ⑥ 十念
- ⑦ 開経偈
- ⑧ 回向
- ⑨ 会津三十三所観世音御詠歌
- ⑩ 舍利礼文
- ⑪ 照益偈

回向は導師につれて唱和し、はじめに大念仏撮取講教友清規を読み上げる

このあと一同は、前庭に出て円陣をつくり念仏踊りとなる。囃子は大太鼓鉦、篠笛によるが数は特にきまっておらず、二・三名ずつのことが多く、主として男性があたる。大太鼓の打法は次の十三通りの九十揆とさまっている。

- ① 三三九度(九揆)
- ② 八卦八仏(八揆)
- ③ 大揃(二十三揆)
- ④ 柳(五揆)
- ⑤ 宝昌(一揆)
- ⑥ 車(四揆)
- ⑦ 車袖(二揆)
- ⑧ 千鳥(十揆)
- ⑨ 千鳥袖(二揆)
- ⑩ 都美(二揆)
- ⑪ 小揃(十二揆)
- ⑫ 結び(六揆)
- ⑬ 山越(六揆)

九十揆というのは、舍利礼文の七十二字と南無光明遍照十万世界念仏衆生撮取不捨の請益文十八字を合わせたものといひ、やはり供養念仏の姿を強くどめている。

踊り手は位置の移動はせず、その場での手踊りであるが、四つ竹を持って調子に合わせることもある。振りには地区によって多少異なるものの、芸能としては大変素朴な踊りである。

踊りの後半には道化のヒョットコやオカメが出て、踊り手の間をぬって歩き、興を添える趣向もある。